

世田谷 市民大学

2025 年度前期募集案内

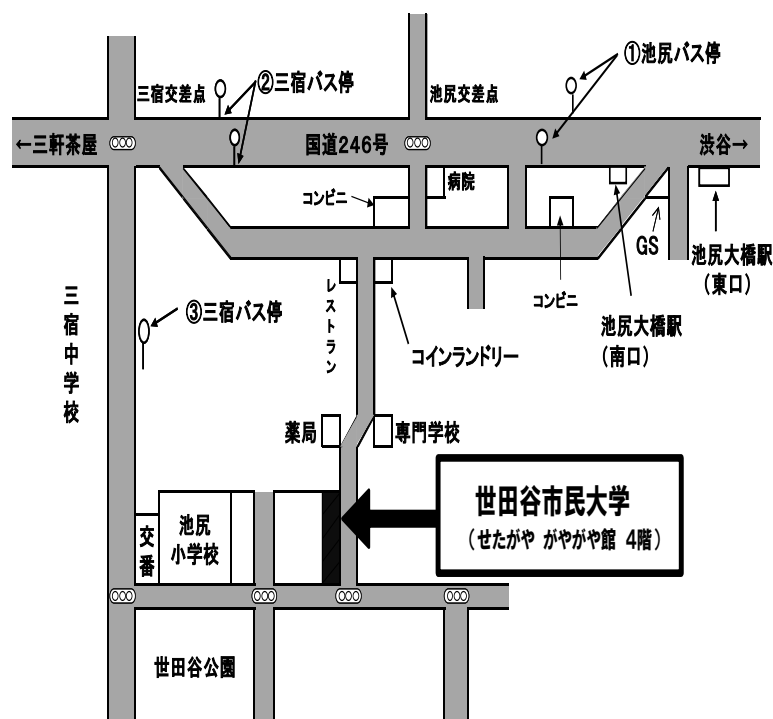
申込締切日 2月20日(木)

※追加募集を3月14日(金)まで行う場合があります。

「世田谷市民大学」は、18歳以上の区民が誰でも参加できる区民のための学習の場です。

政治・社会・経済・人間に関連した幅広いテーマを取り上げ、地域社会に密着した問題や、市民自治の担い手に必要な現代社会の諸問題に対する確かなものの見方を培うよう、講師陣が丁寧に系統的な講義・ゼミを行います。

●世田谷市民大学 案内図



(交通ご案内)

電車

東急田園都市線 「池尻大橋駅」
南口より徒歩約8分

バス

①番の「池尻」バス停より徒歩約7分

②番の「三宿」バス停より徒歩約7分
(渋谷駅～上町駅・用賀駅・祖師ヶ谷大蔵駅・
成城学園前駅西口・調布駅南口・等々力・
田園調布駅・二子玉川駅 他)

③番の「三宿」バス停より徒歩約7分
(渋谷駅～野沢龍雲寺(循環)、
渋谷駅～東京医療センター 他)

※世田谷市民大学受講生用の駐車場はありません。

(1階にコインパーキングがあります)

※「せたがや がやがや館」は、世田谷区立健康増進・交流施設です。市民大学は、施設内の会議室を一部借用して開講しています。

世田谷区 市民大学・生涯大学事務局

〒154-0001 世田谷区池尻2-3-11 セタがや がやがや館4階
TEL 03-3412-3071 FAX 03-3412-3075
(8:30～17:00 土・日曜日、祝日休)

世田谷区 生活文化政策部 市民活動推進課

〒156-0043 世田谷区松原6-3-5 梅丘分庁舎
TEL 03-6304-3176 FAX 03-6304-3597
(8:30～17:00 土・日曜日、祝日休)

— 目 次 —

◇学習の方式・・・・・・・・・・・・・P1	◇前期プログラム・・・・・・・・・・・・・P2, 3
◇昼間講座の概要・・・・・・・・・・・・・P4, 5	◇ゼミ/土曜講座/少人数特別講座の概要・・・・・P6, 7
◇今後の予定講座・・・・・・・・・・・・・P8, 9	◇運営委員会/評議会・・・・・・・・・・・・・P9
◇申込みのご案内・・・・・・・・・・・・・P10	◇申込書・・・・・・・・・・・・・(裏表紙)

学習の方式

世田谷市民大学は、月曜日に「政治」・「社会」、金曜日に「経済」・「人間」のコースがあり、それぞれ「ゼミ」と「昼間講座（前期・後期）」で構成されています。

その他、土曜講座（前期・後期）、少人数特別講座（前期・後期）、世田谷市民サマーフォーラム、公開講座などもあります。これらの中から希望の講座を選択し、学習することができます。

この募集案内では、以下の前期講座について申込みを受付けます。

講座の詳細はP. 2～7を、申込み方法等はP. 10をご覧ください。

募集講座(前期)

講座名	コース	定員	回数	内容・受講上の注意
ゼミ (通年)	政治 社会 経済 人間	各18名	24回	講師の指導のもと、発表・討論を行うなど、自主的に学習を進めます。 ※同日、同時間帯の昼間講座との重複受講不可。 ※受講料は半期ごとに納入いただきます。 詳細:P2、6
昼間講座	政治 社会 経済 人間	各70名	12回	講師がテーマに沿って講義形式で行います。 ※講座は希望するコース・時間割の選択制です。 (複数受講可) ※同日、同時間帯のゼミとの重複受講不可。 詳細:P2、4、5
土曜講座		各70名	6回	土曜日に講義形式で行います。 詳細:P3、7
少人数 特別講座		各30名	6回	

その他の講座紹介（別途募集を行います）

講座名	内 容
世田谷市民サマーフォーラム	7月～8月に行う短期集中型講座で、統一テーマのもと複数回行います。
公開講座	12月～2月にかけて行う無料の特別講座です。

2025年度 世田谷市民大学 前期プログラム

※掲載をしている講師の肩書は2024年12月1日現在のものです。

曜日	日程	区分	時間割	講座タイトル	講師
月曜日	4月 7・14・21・28日 5月 12・19・26日 6月 2・9・16・23・30日 (全12回)	昼間講座	政治 1 時限	パレスチナ問題の展開と現在 ※ 2	木村 正俊 (法政大学教授)
			政治 2 時限	アメリカ政治 ～歴史と制度から考える	岡山 裕 (慶應義塾大学教授)
		ゼミ	政治 (午後)	東アジアの国際関係 ※ 1	林 泉忠 (東京大学東洋文化研究所特任研究員)
		昼間講座	社会 3 時限	六子の戦後 ～戦後日本社会論～	浜 日出夫 (慶應義塾大学名誉教授)
			社会 4 時限	21世紀前半の文化的グローバル化の点描 ※ 5 (スクリーン投影講座)	川崎 賢一 (駒澤大学名誉教授)
		ゼミ	社会 (午前)	昭和の世相史をとおして 社会学的想像力を養う ※ 1 ※ 3	白水 繁彦 (駒澤大学名誉教授)

金曜日	4月 11・18・25日 5月 2・9・16・23・30日 6月 6・13・20・27日 (全12回)	昼間講座	経済 1 時限	日本経済と少子高齢化	八代 尚宏 (昭和女子大学特命教授)
			経済 2 時限	バブルの経済理論	櫻川 昌哉 (慶應義塾大学教授)
		ゼミ	経済 (午後)	経済学入門から研究者に ※ 1	浅子 和美 (一橋大学名誉教授)
		昼間講座	人間 3 時限	市民の時代は幻か ～あれから30年、これからの30年	李 妍焱 (駒澤大学教授)
			人間 4 時限	「半径5m」から世界を書く	藤原 章生 (ノンフィクション作家)
		ゼミ	人間 (午前)	史料から読み解く 日本の近代・現代教育 ※ 1	小野 雅章 (日本大学特任教授)

曜日	日 程	区分	時間割	講座タイトル	講 師
土曜日	5月 10・17・24・31日 6月 7・14日 (全6回)	土曜講座・少人数特別講座	土曜講座 1時限	死生観と死別の悲しみ ～死に向き合って生きる	島 蘭 進 (NPO 東京自由大学学長)
			少人数 特別講座 2時限	ジェンダーの視点から見る 日本史 ※ 4	横山 百合子 (国立歴史民俗博物館名誉教授)
			土曜講座 3時限	芸術政策とは何だろう	枝川 明敬 (東京芸術大学名誉教授)

【講 義 時 間】

昼間講座 土曜講座 少人数特別講座	1時限	9時20分～10時40分
	2時限	11時00分～12時20分
	3時限	13時10分～14時30分
	4時限	14時50分～16時10分
ゼミ	午前	10時20分～12時20分
	午後	13時30分～15時30分

※ 1

ゼミは前期・後期の通年講座です。後期のゼミ日程は以下の予定です。

【月曜日】9月1日～12月15日(祝日除く)

【金曜日】9月5日～11月21日

※ 2

政治1時限「パレスチナ問題の展開と現在」の4月14日の講義は休講の予定です。

7月7日(月)の同時刻に補講を予定しています。

※ 3

社会ゼミ(午前)「昭和の世相史をとらえて社会学的想像力を養う」の9月1日の講座は休講の予定です。12月22日(月)の同時刻に補講を予定しています。

※ 4

少人数特別講座「ジェンダーの視点から見る日本史」の6月7日の講座は休講の予定です。

6月21日(土)の同時刻に補講を予定しています。

※ 5

社会4時限「21世紀前半の文化的グローバル化の点描」は、講師と講義会場をオンラインで結んでの講義となります。受講者は講義会場に集合し、スクリーンに投影された講師の講義を受講します。当日の講師への質問は、事務局で用意した質問用紙を利用し、次回講義日に回答する流れになる予定です。なお受講者の方が、パソコン、スマートフォン等の機器を準備していただく必要はありません。

上記講座以外も、都合により講義日に変更が生じる場合は、最終回の翌週以降、同曜日、同時間に補講を行うことを基本とします。

月曜日 政治コース

1 時限：パレスチナ問題の展開と現在 (木村 正俊)

2024 年 10 月 7 日以降の「パレスチナ・イスラエル戦争」はイスラエルのレバノンやイランに対する攻撃など、中東地域に大きな影響を与えているだけでなく、地域外の国々にも影響をあたえています。

この講義では以下の点に留意しながら行います。

- 1) パレスチナ問題の歴史的展開
- 2) イスラエル、パレスチナそれぞれの内部の政治
- 3) パレスチナを巡る中東の地域政治、U S を中心とする国際政治
- 4) 日本とパレスチナ、イスラエルとの関係

2 時限：アメリカ政治 ～歴史と制度から考える (岡山 裕)

日本では、しばしばアメリカが「最も重要な外国」といわれ、日々様々な情報が入ってきますが、政治については意外と理解されていないように思われます。この授業では、建国からの歴史の概略と、立法や選挙等の現代の政治過程に分けて解説していきます。現代については、大統領制や連邦制に特徴づけられる政治制度の下で、有権者や利益団体といった様々な主体がどう活動するのかを、事例を示しつつ一般的に説明します。そこでは、党派的・社会的分断の下で民主主義の「後退」の危機がどう生じているのかも検討したいと考えています。

- 第 1 回 歴史① 建国と二大政党制の登場
- 第 2 回 歴史② 南北戦争とその遺産
- 第 3 回 歴史③ 国家機構の発達
- 第 4 回 歴史④ リベラルの優位から分極化の政治へ
- 第 5 回 主体① 有権者と政治参加
- 第 6 回 主体② 政党と選挙
- 第 7 回 主体③ 利益団体の活動
- 第 8 回 主体④ 政治的インフラストラクチャー
- 第 9 回 制度① 連邦議会における立法過程
- 第 10 回 制度② 大統領と官僚機構
- 第 11 回 制度③ 司法をめぐる政治
- 第 12 回 制度④ 連邦制の作動の仕方

月曜日 社会コース

3 時限：六子の戦後 ～戦後日本社会論～ (浜 日出夫)

この講義では星野六子という女性の人生をたどりながら戦後日本社会の歩みを振り返ってみたいと思います。六子は 2005 年に公開された映画「ALWAYS 三丁目の夕日」の主人公です。1943 年 10 月 21 日青森県生まれ、58 年 3 月中学校を卒業すると、集団就職列車に乗って、高度経済成長が始まったばかりの東京にやってきます。東京タワーが建設中でした。東京で六子は自分が生まれ育った青森の大家族とはまるで違う近代的な核家族を作り、2 人の子どもを育てます。それから約半世紀、六子は自分の子どもたちや孫たちが自分の知らない社会に足を踏み入れていくのを不安そうに見守っています。六子とその家族のありえたかもしれない人生を追いつながりながら戦後日本社会の変化をたどってみましょう。

- 第 1 回 講義の見取り図
- 第 2 回 集団就職の時代
- 第 3 回 テレビの時代
- 第 4 回 六子の結婚
- 第 5 回 高度経済成長期の社会
- 第 6 回 一億総中流社会—安定成長期の社会—
- 第 7 回 失われた 30 年
- 第 8 回 家族の変容
- 第 9 回 雇用の変容① (女性の場合)
- 第 10 回 雇用の変容② (男性の場合)
- 第 11 回 地域の変容
- 第 12 回 第二の近代社会を生きる

4 時限：21 世紀前半の文化的 グローバリゼーションの点描 (川崎 賢一)

スクリーン投影による講義となります。P3※5 参照

20 世紀には、2 度の世界大戦を経て、グローバルな世界が成立することになりました。特に、1970 年から 90 年代にかけて、科学技術の画期的な発展、経済・金融体制の拡大、政治的秩序の激変などがあり、それらの体制や秩序から比較的切り離されていた文化全体が、経済・政治・社会秩序に組み込まれ、さらに、融合することになり、その典型的場所がグローバル創造都市等などになりました。そして、21 世紀に入り、20 世紀的秩序が大きく変化をし始め、アメリカ 1 極から、中国の台頭、インドの登場等の巨大な変化を遂げつつあります。文化システムもその流れを受け、ヨーロッパやアメリカ中心の構造が変化しつつあります。その全体の変化を見通すことは難しいですが、少なくとも、その中核と思われる特色を、部分的に取り上げ分析をしてみたいと思います。

そして、具体的なトピックとして、以下のような項目を考えています。(ただし、順序が変更になったり、新しい項目が追加になったりする可能性があります。)

- ① 究極的目標：宇宙開発・人類の存続・基本的人権
- ② 人間の生き方：新しいコスモポリタニズム
- ③ 新しい Multilateralism の必要性
- ④ 情報文化の展開：通信とコンピューターの融合の意味
- ⑤ アングロサクソンのグローバリゼーション：その後
- ⑥ リトマス試験紙としてのシンガポール文化
- ⑦ 日本文化の展開：東京と京都
- ⑧ 文化の三角形：文化政策・文化産業・文化交流
- ⑨ 創造性：創造産業・コンテンツ産業・生成 AI
- ⑩ グローバル創造都市の文化的グローバリゼーション

金曜日 経済コース

1 時限：日本経済と少子高齢化

(八代 尚宏)

日本経済は過去 30 年間に長期停滞に陥ったままで実質賃金も増えません。今後、急速に進む少子・高齢化の下で、こうした日本経済をどう立て直せるか、活力ある労働市場への改革をどう進めるか、社会保障制度をどうすれば維持できるか等が、直近の大きな課題になっています。

こうした問題について欧米諸国では、増税を前提に社会保障を充実させる大きな政府か、逆に歳出抑制で市場を活用する小さな政府かの、対立する立場での論争が行われています。しかし、日本では与野党が、共に、現状維持の政策を続けるだけで、長期的な課題に取り組もうとはしていません。

講師は、官庁、国際機関、民間研究機関、大学等で、長年、経済政策に関わってきました。こうした経験を生かして、必要な政策の方向性について、議論したいと考えています。

- 第 1 回 戦後日本経済の展望と課題
- 第 2 回 高度経済成長の時代とその屈折
- 第 3 回 日本経済の国際化と日米貿易摩擦
- 第 4 回 バブルの崩壊と長期経済停滞の始まり
- 第 5 回 小泉構造改革と郵政民営化
- 第 6 回 アベノミクスと成長戦略
- 第 7 回 人口の少子・高齢化、女性の社会進出
- 第 8 回 日本的雇用慣行と労働市場改革
- 第 9 回 農業改革と地域の均衡ある発展政策
- 第 10 回 社会保障と年金の持続可能性
- 第 11 回 医療と介護保険の持続可能性
- 第 12 回 まとめ

2 時限：バブルの経済理論

(櫻川 昌哉)

第 1 回と第 2 回では、合理的なはずの人々が本来の価値以上に価格が付いた資産をなぜ保有し続けるのかを考えたい。第 3 回から第 5 回にかけて、1980 年代の日本において地価と株価を中心とした未曾有の巨大バブルがどのような経緯で生じたのか説明する。第 6 回と第 7 回では、米国において、住宅バブルが証券化商品を大量に生み出した経緯と、証券化の破綻が金融危機に至った顛末について振り返る。第 8 回では、低金利の経済を対象にした「低金利のマクロ経済理論」を考える。第 9 回から第 11 回にかけて、低金利経済における金融政策と財政政策について学ぶ。超金融緩和の効果がなぜ弱かったのか、国債が大量発行されているにもかかわらずなぜ財政は破綻することなく維持されているのか考えていきたい。最終回ではまとめを行う。

- 第 1 回 バブルとは何か？
- 第 2 回 資産価格とバブルの関係
- 第 3 回 貿易摩擦、プラザ合意からバブルの発生へ
- 第 4 回 バブルの拡大と金融緩和、銀行信用の膨張
- 第 5 回 バブルの破綻と銀行信用の収縮、不良債権問題
- 第 6 回 米国の住宅バブル、証券化、金融危機
- 第 7 回 米国の住宅バブル、証券化、金融危機
- 第 8 回 バブルと低金利のマクロ経済理論
- 第 9 回 低金利と超金融緩和
- 第 10 回 低金利と財政の維持可能性
- 第 11 回 低金利と財政の維持可能性
- 第 12 回 バブルと低金利のまとめ

金曜日 人間コース

3 時限：市民の時代は幻か—あれから 30 年、これからの 30 年

(李 妍姝)

私が留学生として東北大学大学院に進学したのは 1995 年。それは「ボランティア元年」をもたらした阪神淡路大震災の年であった同時に、物質的に豊かな時代の暗部を露呈させた衝撃的な地下鉄サリン事件の年でもあった。21 世紀の豊かさはモノの量ではなくヒトのつながり方にこそある、ということを改めて印象づける 2 つの出来事であった。

その影響もあり、1990 年代の後半から大いに語られたのが、21 世紀が「市民の時代」になるという期待であった。30 年経ったいま、その期待は幻に終わってしまったのだろうか。本講座では過去 30 年間、日本の市民社会がどう動いてきたのか、そのダイナミックスを示した上で、今後 30 年の新たなステージを切り拓く市民的实践のトレンドに注目し、その特徴とその語り方を紐解いていく。

- 第 1 回 熱き 90 年代：「市民の時代」への期待
- 第 2 回 NPO と「新しい公共」の提唱
- 第 3 回 社会課題の解決を志す社会起業とソーシャルビジネス
- 第 4 回 もう一つの経済を提唱する社会的企業と社会的連帯経済
- 第 5 回 社会課題の解決よりウェルビーイングを志向する地域実践
- 第 6 回 ソーシャルイノベーションの文脈で市民的实践を捉え直す
- 第 7 回 資本主義システムへの疑問とオルタナティブに関する模索
- 第 8 回 オルタナティブ思考の合流地点—コモンズへの再注目
- 第 9 回 市民のコモンズ概念提起
- 第 10 回 市民のコモンズの実践例 (1)
- 第 11 回 市民のコモンズの実践例 (2)
- 第 12 回 市民のコモンズで切り拓くこれからの 30 年

4 時限：「半径 5m」から世界を書く

(藤原 章生)

身近な人々、出来事からどう世界をとらえ、何を書くことができるだろうか。本講義ではそれを受講者とともに考えたいと思います。

講師は過去に出した本（下記）をはじめ、毎日新聞記者として約 65 カ国を拠点にした企画記事の、ほぼすべてを「半径 5m 以内」の経験から書いてきました。

意図して狙ったというより、アフリカや中南米、南欧に暮らす中で、自然と身についた手法でした。その地を離れると、対象への関心が消え、目の前のことにしか集中できない気質も大きいと思います。

本講義では記事や本の抜粋など具体例をもとに、取材のやり方、原稿の書き方についてお伝えします。世界各地の写真のスライドショーも BGM つきでお見せする予定です

講師の著書

『絵はがきにされた少年』（2005 年、開高健ノンフィクション賞）、『ガルシア＝マルケスに葬られた女』（07 年）、『ギリシャ危機の真実』（10 年）、『資本主義の「終わりの始まり」』（13 年）、『湯川博士、原爆投下を知っていたのですか』（15 年）、『ぶらっとヒマラヤ』（21 年）、『酔いどれクライマー 永田東一郎物語』（23 年）、『差別の教室』（同）

《月曜日》政治ゼミ 東アジアの国際関係

(林 泉忠)

近現代東アジアの国際関係を歴史的視点から検証する講座である。19世紀半ばのアヘン戦争を契機とした西洋の侵出、中華帝国の崩壊、明治維新、そして日本による侵略戦争・植民地支配によって、近代東アジアの国際関係は大きく変貌していた。また戦後の朝鮮半島・台湾海峡における冷戦状態が長期化しながらも、日本、アジア NIES、そして中国の経済的躍進で東アジアは世界に注目されてきている。さらに、21世紀に入り、中国の台頭および米中対立による東アジアないしインド太平洋地域の秩序は地政学的に変わりつつある。

本講座は、近代以降東アジアの国際関係の変遷や日本と他のアジア諸国との関係に注目したい。

毎回異なるテーマを設定し講師による概説と受講生による発表および討論という形で進行していく。

《月曜日》社会ゼミ 昭和の世相史をとおり社会学的想像力を養う

(白水 繁彦)

皆さんと一緒に、昭和という時代を庶民文化の視点から捉えなおしてみたいと思います。

このゼミで養いたいのは「社会学的想像力」(C.W. ミルズの言葉)。社会学的想像力とは個人や小集団の「ミクロ」な出来事・経験を、より広い社会の「マクロ」の動きと結びつけて考えることができ、さらに、広い社会の出来事を身近な問題として考える能力のこと。マクロとミクロの複眼的な歴史把握を目指しましょう。

手がかりとするテキストは加藤秀俊著『習俗の社会学』(1978年、PHP研究所。PHP文庫版は1991年)。この本のなかから興味深い章をいくつか取り上げ輪読します(本が手に入らない場合はコピー配付)。この本は主として明治期以降の日本の庶民文化の変化(世相史)を取り上げていますが、1970年代までの記述で終わっています。したがって、その後の世相の変化についても自分たちの体験・知識を基に、徹底してコメントを加えて行きましょう。このテキストの輪読は前期で終わる予定です。

後期は、前期の知識をもとに、実際に自分または身近な人の体験記または生活史を、写真・日記・手紙・聞き書きなど個人資料を駆使して作成してみます。その方法についてはゼミのなかで紹介します

《金曜日》経済ゼミ 経済学入門から研究者に

(浅子 和美)

経済学に関心のある受講生が多い中で、最初から専門テーマに取り掛かるのは躊躇するといった要望を受けて、前半期で経済学の初心者としての入門事項をひと通りマスターした後、後半期に各受講生の興味に応じて、関心のある課題へのアプローチ法をディスカッションを通じて探索する。最終的にはゼミの修了文集への寄稿が望まれる。

前期における入門としては、以下が話題。経済学のスタートラインに立つ、経済学はサイエンスかアートか？ 経済学が歩んだ道のり、資源配分の効率性と所得分配、完全競争の3つの条件、神の見えざる手と自由放任、社会的総余剰とパレート最適、市場経済と計画経済、市場均衡の存在・唯一性・安定性の条件、市場の失敗と政府の失敗、厚生経済学の基本定理、理論と実証、事実解明分析と規範分析、ミクロとマクロが経済学の両輪、合成の誤謬、経済政策の基本定理、政策割当と経済安定性、経済の持続可能性を巡って(財政赤字、公的年金、経済成長と環境問題)。

《金曜日》人間ゼミ 史料から読み解く日本の近代・現代教育

(小野 雅章)

学校生活に関する話題(授業、運動会、遠足・修学旅行などの学校行事、進路決定、など)は、父母・自身、子ども、孫の四世代を通じて共通することや共感することが少なくありません。このような戦前に成立した学校教育の様々な慣行が現代教育にどのような影響を与えているのか、この点について、資料(文献・画像)を確認・検討することで明らかにしたいと思います。

ゼミは、概ね、以下の三つの角度から、日本の近代・現代の教育の実態について、①明治維新の改革による近代学校の発足(明治5年)から戦前の義務教育の原型の成立(1900年)に至る過程、②その原型が成立した戦前日本の義務教育の実施過程(1900年～1946年)、③戦前日本の義務教育が、戦後の義務教育に与えた影響(授業形態、校舎や教室などの教育空間、学校儀式や行事、子ども達の生活サイクル)、を担当者が用意する資料(史料とその解説)の読み合わせと検討により、明らかにすることで、近現代日本の学校教育の構造の性格について考えていきたいと思います。

土曜講座

土曜1時限：死生観と死別の悲しみ ～死に向き合って生きる (島蘭 進)

宗教から離れていく現代人は死に向き合うしかたにとまどう。そこで、あらためて死に向き合うすべを学び合わさなくてはならないと言われてきた。しかし、高齢化が進み多死社会とよばれるような現実はいやでも死に向きあわざるをえず、「終活」といえばわがことだと感じる人が増えてきたのも確かである。

新たに「死にゆく人間」という視点が再認識されるようになったとして、では、自らの死を、また親しい他者の死をどう受け止めればよいのだろうか。死生観を問い、自らの死にどのように向き合い、親しい他者の死に直面してとまどう人々をそのように支えていくことができるだろうか。

この講座では以上のような問いに対して、死生学的な観点から参加者とともに考えていきたい。

土曜3時限：芸術政策とは何だろう (枝川 明敬)

2024年のパリオリンピック開会式で、ドラァグクイーンがレオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」をパロディ化し、キリスト教の聖餐を揶揄したとしてローマ教皇から批判を受けました。この演出を芸術として評価するか、単なる宗教批判とみなすかは、見る人の考え方に依存します。欧米では芸術の倫理性が議論されますが、日本では憲法の自由権との関係がいわれ、芸術政策は主に経済支援に焦点を当てています。倫理や憲法との関わり、経済的に見た芸術活動など芸術政策の最新動向を手始めに演劇の歴史や東西比較に焦点を絞って、通説とは違うトピックスについてお話しします。

- 第1回 芸術の倫理と表現の自由（憲法との関係）
- 第2回 芸術政策の概念と枠組み
- 第3回 芸術を経済的に見れば
- 第4回 舞台芸術の概念とその始まり
- 第5回 舞台芸術の考え方がこんなに違う欧米と日本
- 第6回 最近の芸術がわからないのはなぜ？

少人数特別講座

土曜2時限：ジェンダーの視点からみる 日本史 (横山 百合子)

2020年秋、国立歴史民俗博物館（略称歴博）では、企画展示「性差（ジェンダー）の日本史」を開催しました。政治空間、仕事とくらし、性の売買の三つの分野を取り上げ、なぜ男女という区分がつくられ、それがどのように変容してきたのかを史資料に基づいて明らかにした歴博展示は、大きな関心呼びました。本講座では、まず、世界各地の博物館におけるジェンダー視点に立った歴史展示への挑戦と、その豊かな成果を紹介します。そのうえで、日本の歴博展示における三つの分野の展示ストーリーをふりかえり、特に関心を集めた史資料を具体的に紹介・分析し、ジェンダー視点から歴史をみることの面白さと意義を考えていきます。講義では、主として近世の史資料を取り上げますが、その他の時代の史資料も、適宜紹介します。

- 第1回 歴史におけるジェンダー：世界の博物館の経験から
- 第2回 政治空間におけるジェンダーとその変容
- 第3回 仕事とくらしのなかのジェンダー
- 第4回 性の売買と社会（1）
- 第5回 性の売買と社会（2）
- 第6回 ジェンダー平等への道：戦後改革から現代へ

2025年度後期講座予告

後期(9月～12月)は以下の講座を開講予定です。

詳細は7月上旬に発行予定の『市民大学後期募集案内』をご覧ください。

※掲載をしている講師の肩書は、2024年12月1日現在のものです。

曜日	時間割	講座タイトル	講師
月曜日	政治1時限	文化財をめぐる日本戦後史 ～運動・学知・開発の観点から	鈴木 健吾 (東京大学学術専門職員)
	政治2時限	習近平時代の中国政治	李 昊 (東京大学准教授)
	社会3時限	社会学の観点から考える「私」	牧野 智和 (大妻女子大学教授)
	社会4時限	衰退の文明史 ～日本と人類の未来を読む	吉見 俊哉 (國學院大學教授)
金曜日	経済1時限	現代の企業 ～その歩みとその行方	鈴木 良隆 (一橋大学名誉教授)
	経済2時限	大都市東京の形成史	鈴木 智行 (国士舘大学専任講師)
	人間3時限	戦後日本の知識人と市民運動	和田 悠 (立教大学教授)
	人間4時限	子どもに関わる諸問題を考える ：歴史社会的な視点から	小玉 亮子 (お茶の水女子大学教授)

曜日	時間割	講座タイトル	講師
土曜日	土曜2時限	アメリカ政治とメディア	清原 聖子 (明治大学教授)
	土曜3時限 少人数特別講座	宗教と社会 ～社会学はこう考える	奥井 智之 (亜細亜大学教授)
	土曜4時限	国際政治とグローバル市民社会の構 想	竹中 千春 (立教セカンド・ステージ大学兼任講師)

世田谷市民大学運営委員会／評議会

学 長
運営委員長

浅子 和美（一橋大学名誉教授）

2024年12月1日現在

運営委員

小川 有美（立教大学教授）
苅部 直（東京大学教授）
川崎 賢一（駒沢大学名誉教授）
高嶋 修一（青山学院大学教授）
高原 明生（東京女子大学特別客員教授）
滝澤 美帆（学習院大学教授）
玉野 和志（放送大学教授）
広岡 守穂（中央大学名誉教授）
吉見 俊哉（國學院大学教授）
米山 光儀（慶應義塾大学名誉教授）

評議員

馬場 康雄（東京大学名誉教授）
間宮 陽介（京都大学名誉教授）
和田 あき子（ロシア文学研究者）

今後の予定講座(2025年度)

世田谷市民サマーフォーラム

21世紀の地域と暮らしの変化に向き合う！

人口減少や少子高齢化が進むことで、地域社会や私たちの暮らしは、いやおうなしに変化していかざるを得ません。なかでもインフラ・都市施設の老朽化やコミュニティの劣化・空洞化は待ったなしと懸念されます。一方、情報化技術や医療技術等の著しい進展により、様々な面で今までとは異なる暮らし方に向き合うことが求められます。

今年度はこのような時代環境に鑑みて、21世紀の地域と暮らしについてあらためて考えたいと思います。

※2025年7月に実施予定です。

公開講座

広く一般区民の方を対象として年2～3回行われる特別講座です。（事前申込み制・受講料は無料）

※2025年12月～2026年2月にかけて実施予定です。

受講生企画会議について

「土曜講座」の一部、「少人数特別講座」及び「世田谷市民サマーフォーラム」、「公開講座」については、『受講生企画会議』において受講生が企画し、上記の市民大学運営委員会に提案を行っています。

『受講生企画会議』の詳細は、市民大学事務局受付に配架中の「企画会議員の募集」ちらしをご覧ください。

申込みのご案内

募集対象

18歳以上の区内在住・在勤・在学の方

※在勤在学証明書ご提示のお願いや、在勤・在学先へ在籍確認のご連絡を差し上げる場合があります。予めご了承ください。在学者とは世田谷区内の学校教育法第1条に規定される学校に在籍している方を対象とし、大学の聴講生や各種社会人講座を含むカルチャーセンター等の受講生は対象となりません。

申込み方法

(1) 裏表紙の申込書利用の場合

必要事項を記入の上、世田谷市民大学あてに郵送してください。

※必ず85円切手を貼ってお出してください。

(2) 郵便はがきまたはFAX利用の場合

裏表紙の申込書と同様の内容を記入の上、世田谷市民大学あてに郵送またはFAXでお申込みください。

(3) オンライン手続き利用の場合

「東京共同電子申請・届出サービス」より、お申込みください。

二次元コード →

(募集期間外は表示されません)



※オンライン手続きで入力いただいたメールアドレスへ、突発的な休講等の連絡をする場合があります。予めご了承ください。

前期募集期間

ゼミ(通年)	
昼間講座	2月1日(土)～20日(木) ※消印有効
土曜講座	
少人数特別講座	

募集定員

ゼミ(通年)	1ゼミにつき18名
昼間講座	1講座につき70名
土曜講座	1講座につき70名
少人数特別講座	1講座につき30名

※定員を大幅に下回るときは中止になる場合があります。申込多数の場合は、抽選により受講者を決定します。(抽選の場合、初めて市民大学に申込まれる方を優先します)

受講料

ゼミ	前期・後期各17,000円 昼間講座との割引制度があります。詳細は下記をご覧ください。
昼間講座	1講座につき7,000円 ゼミとの割引制度があります。詳細は下記をご覧ください。
土曜講座	1講座につき5,000円
少人数特別講座	1講座につき5,000円

※ゼミと昼間講座との併用割引について

- ・ゼミと昼間講座を併せて受講決定されると、昼間講座の受講料が割引になります。
- ・昼間講座1講座につき3,500円(2講座まで)2講座を超える場合は3講座目から、1講座につき6,000円になります。

- ゼミでは、学習用教材を購入していただく場合があります。
- ゼミ後期分受講料の納入については、6月頃に改めてお知らせいたします。

受講者の決定・受講料の支払い

◎3月上旬に、申込者全員に受講可否の通知を郵送します。受講可否についての問合せはご遠慮ください。また、受講が決定した方には別途、納付書を郵送します。(4月上旬)

◎納付された受講料は、原則としてお返しできません。

《前期講座の追加募集について》

申込締切日(2月20日木曜日)以降、定員に満たない講座については、先着順で追加募集をします。(3月14日金曜日まで)

追加募集の講座については、お電話でお問い合わせください。

※各講座先着順で、定員に達し次第締切ります。

TEL 03-3412-3071

受付時間/8:30～17:00土・日曜日、祝日はお休みです。

× ㊦

2025 年度前期講座の申込控えとしてお使いください

【ゼミ】

○印	時限	ゼミ名	講師
社会	(月)午前	昭和の世相史をとおりて 社会学的想像力を養う	白水 繁彦 (駒澤大学名誉教授)
政治	(月)午後	東アジアの国際関係	林 泉忠 (東京大学東洋文化研究所 特任教授)
人間	(金)午前	史料から読み解く 日本の近代・現代教育	小野 雅章 (日本大学特任教授)
経済	(金)午後	経済学入門から研究者に	浅子 和美 (一橋大学名誉教授)

【昼間講座】

○印	時限	講座名	講師
政治	(月)1時限	パレスチナ問題の展開と現在	木村 正俊 (法政大学教授)
	(月)2時限	アメリカ政治 ～歴史と制度から考える	岡山 裕 (慶應義塾大学教授)
社会	(月)3時限	六子の戦後 ～戦後日本社会論～	浜 日出夫 (慶應義塾大学名誉教授)
	(月)4時限	21世紀前半の文化的 グローバリゼーションの点描	川崎 賢一 (駒澤大学名誉教授)
経済	(金)1時限	日本経済と少子高齢化	八代 尚宏 (昭和女子大学特命教授)
	(金)2時限	バブルの経済理論	櫻川 昌哉 (慶應義塾大学教授)
人間	(金)3時限	市民の時代は幻か ～あれから30年、これからの30年	李 妍焱 (駒澤大学教授)
	(金)4時限	「半径5m」から世界を書く	藤原 章生 (ノンフィクション作家)

【土曜講座】

○印	時限	講座名	講師
	1 時限	死生観と死別の悲しみ ～死に向き合って生きる	島菌 進 (NPO 東京自由大学学長)
	3 時限	芸術政策とは何だろう	枝川 明敬 (東京芸術大学名誉教授)

【少人数特別講座】

○印	時限	講座名	講師
	2 時限	ジェンダーの視点から見る日本史	横山 百合子 (国立歴史民俗博物館名誉教授)

注意事項

- ・ 講義の録音・撮影、資料の複製は禁止です。
- ・ 授業の妨害行為（録音・撮影含む）が行われていると市民大学が判断した場合は、その場で教室から退室いただきます。原則としてその後の講義もご受講いただけません。
- ・ 諸般の事情により、講義内容、回数、日程等に変更が生じる場合があります。

2025年度 前期申込書

【ゼミ】希望のゼミに○印をつけてください。

曜日	コース	時限	○印
月曜日	社会	午前	
	政治	午後	
金曜日	人間	午前	
	経済	午後	

【昼間講座】希望の講座に○印をつけてください。

曜日	コース	時限	○印
月曜日	政治	1時限	
		2時限	
	社会	3時限	
		4時限	
金曜日	経済	1時限	
		2時限	
	人間	3時限	
		4時限	

2025年度 前期申込書

・希望の講座に○印をつけてください。

【土曜講座】

曜日	時限	○印
土曜日	1時限	
	3時限	

【少人数特別講座】

曜日	時限	○印
土曜日	2時限	

郵便はがき

85 円

※切手を貼
ってください

1 5 4 0 0 0 1

世田谷区池尻 2 - 3 - 1 1
せたがや がやがや館 4 階
世田谷市民大学 行

【ゼミ・昼間講座用】

ふりがな		生 年 月
氏 名		大正 昭和 平成 年 月
住 所	〒	
電 話 番 号		※日中に連絡のとれる 電話番号をご記入くだ さい（携帯電話も可）
区 内 在 勤・在 学 の 方 勤務先、学校名を記入してください。		
市民大学受講経験の有無 ㊦の方は受講者番号を記入してください （受講者番号が不明の場合、記入は不要です。）		有 ・ 無 受講者番号

郵便はがき

85 円

※切手を貼
ってください

1 5 4 0 0 0 1

世田谷区池尻 2 - 3 - 1 1
せたがや がやがや館 4 階
世田谷市民大学 行

【土曜講座・少人数特別講座用】

ふりがな		生 年 月
氏 名		大正 昭和 平成 年 月
住 所	〒	
電 話 番 号		※日中に連絡のとれる 電話番号をご記入くだ さい（携帯電話も可）
区 内 在 勤・在 学 の 方 勤務先、学校名を記入してください。		
市民大学受講経験の有無 ㊦の方は受講者番号を記入してください （受講者番号が不明の場合、記入は不要です。）		有 ・ 無 受講者番号

- 必要事項を記入の上、
ご郵送ください。
※85円切手を必ず貼ってお出してください。

- 申込期間
2月1日(土)～2月20日(木)
(消印有効)
- 提供された個人情報は、
市民大学の運営にのみ利用
します。

《問合せ先》
世田谷市民大学事務局
電話 03-3412-3071
※8:30～17:00
(土・日・祝日はお休みです。)

《お知らせ》

後期(9～12月)に開講する講座は、
7月上旬から募集を行う予定です。